

【演題】何気なく行う (東京駅にて)

平澤俊隆師

【正法眼蔵随聞記】

『学道の人、身心を放下して』 正法眼蔵随聞記四・一

示に曰く、学道の人、身心を放下して一向に仏法に入るべし。

『行者先づ心を調伏しつれば』 正法眼蔵随聞記三・一

示に曰く、行者先づ心を調伏しつれば、身をも世をも捨つる事は易きなり。

(省略)

(*) 所詮は悪心を忘れ、我が身を忘れ、ただ一向に仏法のためにすべき也。

(省略)

初心の行者は先ず世情なりとも、人情なりとも、悪事をば心に制して、善事をば身に行ずるが、即ち身心を捨つるにて有るなり。

『古人云く、霧の中を行けば覚えざるに衣しめる』 正法眼蔵随聞記五・三

一日示に云わく、「古人云く、霧の中を行けば覚えざるに衣しめる。」と。
よき人に近づけば、覚えざるによき人となるなり。

(*) 【学道用心集】

それ仏法修行は、尚自身のためにせず。いはんや名聞利養のためにこれを修せんや。
ただ仏法のためにこれを修すべきなり。

諸仏の慈悲、衆生を哀愍するは、

自身の為にせず、他人の為にせず、ただ仏法の常なり。